

政治学概論 II

(12) グローバル時代の国際政治
= 移民問題を中心に

分裂と統合の国際政治

- 分裂する国々 = 「国益」の追及（民主主義の圧力）
- 統合へと向かう世界 = 共通のルール
- グローバル化（人・モノ・金）の移動の自由化
- 経済格差 破たん国家 国際的テロリズム 難民
- 国民国家⇒ナショナリズム⇒排外主義
- 自由民主主義体制（リベラル・デモクラシー）の揺らぎ

ポスト冷戦時代の新秩序

- 冷戦の終結（1989年～）自由民主主義陣営と社会主義陣営との
軍事的・経済的対立の終わり（米ソ軍縮交渉）
- 社会主義国の（大半が）民主化・市場経済化される
- ←自由民主主義体制・市場経済の優位 =
より豊かで平和な世界への期待 = 「歴史の終わり」
冷戦「秩序」の消失 = 体制変換に伴う混乱 = 国内紛争
民族紛争の多発 = 国連を中心にした人道目的の軍事介入 PKO
市場経済の新たな世界的ルール作り GATT→WTOへ
※「一強国」アメリカを中心にした国際秩序

宗教対立とテロリズム

◆2001年9月11日 アメリカ・同時多発テロ＝「イスラム過激派」による破壊・殺傷行為の転換点（※「文明の衝突」か？）

⇔「アメリカ秩序」民主化、軍事介入や過度な市場化への反発

⇒アフガニスタン攻撃、イラク戦争（米ほか多国籍軍）

世界の不安定化の原因に（のちのシリア紛争などに影響）

◆ヨーロッパでの大規模テロ行為⇒イスラム教徒への不信・反感

移民二世、三世の宗教過激化⇒都市社会での孤立感、疎外感

⇒過激思想、テロリズムの温床？

移民問題と国際政治

- 2015年欧州難民危機 シリアなど中東、アフリカから大量の難民がヨーロッパに押し寄せたことによる混乱・政治的対立も
 - ※「難民」と「移民」はどのように違うのか？
- 「破たん国家」内戦・紛争による人口流出（職を求めて？）
- 受入国側の問題⇒経済的なキャパシティ、言語・習俗の違い
- 20世紀型の移民（人手不足の解消）時代との違い
- ナショナリズムと排外主義的な政党の伸長（「極右」政党）
- 移民は国民国家に定着できるか「福祉ショービニズム」
- 政治の不安定化、リベラル・デモクラシーの揺らぎ

日本政治と移民問題

- 難民認定の少なさ（もともと移民・難民の希望者も少ない）
←「政治的難民」に限定している 島国 厳格な入国管理
「排他的」 人道上の批判も

政府「移民政策はとらない」（2010年代）しかし実際には・・・
「技能実習生」「留学生」⇒多くの人手不足の職場へ
少しずつ就労の要件・制限を緩和している
「人口減少社会」の進行、移民を拒み続けられるか？

考えてみよう

- あなたの身の回り、生活の範囲では、どんな外国人の人たちが働いているか、改めて探してみましよう
- 「移民」「難民」について、日本社会の将来を想像しながら、政治的な意味、政策的な意味を考えてみましよう